

— 言語を意識して表現したくなる手立てを求めて —

キーワード：きのくにeラーニングシステム、掲示板、小中連携、興味関心、表現、手立て、視点

平成 17 年度きのくに e ラーニングシステム教育活用研修講座の小学校・中学校国語科グループとして、きのくに e ラーニングシステムを活用した教材研究を行った。国語科を苦手とする児童生徒は多い。そこで、児童生徒の興味・関心を出発点とし、国語力を伸ばし、しかも意欲的に取り組むことのできる教材を研究・開発し、実践していくという計画のもと取り組みを行った。ここでは、「書く」領域を中心に、児童生徒が言語を使って表現したくなるような手立ての研究・実践を行った。また、小学校中学校合同グループという特性を生かし、国語科における小中連携も視野に入れて研究を行うこととした。

(1) 研究授業を通じた実践

取り組みにあたっては、研修講座によるオフラインの教材研究と、きのくにeラーニングシステム（以下eラーニングシステム）を活用したオンラインによる教材研究の二つを中心に組み込んでいくことにした。まず、研修講座による教材研究では、授業者からの指導案をもとに提案された、「授業のねらい」「単元（教材）とつきたい力」「児童の活動」について説明を受け、授業展開などについて協議を行った。決定した内容は、以下のとおりである。

学年	第 5 学年	第 6 学年
ねらい	「書く」領域に焦点を絞り、児童が主体的に学習に参加していくための手立てを考え、実践する。	
単元「教材」	材料を集めてから書こう「千年の釘にいどむ」	効果的に書いてみよう「森へ」
つきたい力	全体を見通して、書く必要のある事柄を整理する。【国語科指導事項（イ）】	目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書く。【国語科指導事項（ア）】
児童の活動	教材による学習を生かし、父親の仕事の紹介文を書く。	教材による学習を生かし、撮影した写真の紹介文を書く。

また、研究授業前には、参観者が授業者に対してどのような視点で授業に参加したいのかを掲示板に書き込み、めあてを共有したうえで研究授業を実施した。協議会では、複式授業による主体的な児童の学びの様子、授業中に行われた「書く」意欲を向上させる手立てとその効果、ワークシートの活用や視点の持たせ方など多様な意見交換が行われ、今後グループとして研究テーマを絞り、次の実践に向けて取り組んでいくことになった。



写真1 国語科グループ掲示板



写真2 修正された指導案

（２）各校での指導法の研究を通じた実践

研究授業・協議会を受け、「児童・生徒が言語を意識して表現したくなる手立て」をもとにした各校による授業実践及びその分析を二つ目の大きな柱として取り組みを行っていくことにした。小学校 5 校、中学校 2 校が担当学級の児童生徒の実態にあった手立てを考え、実践を行った。実践は以下のとおりである。

①写真や映像を活用することで児童生徒の興味関心を高める取り組み

- ・写真をみて物語を書こう～視点の与え方～（小 5）
- ・写真を利用して表現を豊かにする工夫（中 1）
- ・映像を活用した書くことへの興味を高める工夫（中 1）

②写真や映像で表現し、それをもとに言語で表現する取り組み

- ・写真を利用して、短い言葉で書こう（小 2）
- ・映像で気持ちを表し、光る言葉を引き出す（小 5）

③題材との出会わせ方や選び方など授業展開の工夫

- ・落語家になろう～表現力を高める～（小 5、小 6）
- ・書きたくなる・書きやすくなるための手立て（小 4）

ここでも教材研究を行うにあたり、e ラーニングシステムを活用した。研究授業での取り組みと同様に掲示板の活用を主とし、指導案や教材、学習計画（写真 3）などを添付することで意見交流を行った。つまずきのポイントが同じであったり、書き込みが自分の課題につながるなど各自が書き込みを通して授業改善につなげていくことができた。また、取り組みのポイントや児童生徒の様子を随時掲示板にアップしていきながら意見を求め、授業設計を明確化していく事例もみられた。さらに、実践の足跡を残すという目的で、指導案及び児童生徒の学習の成果物並びに活用した教材等をコンテンツ化し、e ラーニングシステム上にアップ（写真 4）し、公開への手続きを行った。

取り組み終了後は、各自の取り組みをもう一度検証し、「目的」「手立てや方法」「成果」の 3 観点について分析し、掲示板の上に書き込みを行い、交流を深めた。

これらの取り組みから得たことは、具体的な表現方法の視点を与えることが国語科好きの児童生徒の育成につながるという見通しがもてたということである。

3. 成果及び効果

- ただ単に言葉を用いて表現しなさいというのではなく、児童生徒に表現方法について具体的な視点を与え、それをもとに表現させていく実践を通して、今まで見えなかった児童生徒の国語科に対する学習態度や意欲の一面を発見することができた。
- 小学校での国語科学習について、研究授業を通して、中学校の国語科教諭も加わって磨きあうことで、実践のアイデアの幅が広がり、小学校から中学校への学びの連携の見通しを持つことができたのは大きな成果であった。
- 掲示板を活用することで、時間や場所にとらわれることなく、自由に意見交流が行え、書き込みを重ねることで多様な意見に触れることができるため、授業力アップにつながった。また、掲示板でのやりとりを行う中で、自分の考えが整理されていき、新たな課題を見つけるに至った。
- きのくに e ラーニングシステム上の教育用コンテンツの作成に指導案や教材、児童生徒の成果物を収めておくことができたので、必要なときに閲覧しながら、掲示板を使って交流ができたことは大変有効であった。

4. 終わりに

この研究で得られたことは、表現方法についての具体的な視点を与えることで、文に慣れ親しみ、国語好きの児童生徒の育成につながるのではないかという光がみえたことである。楽しく取り組み、しかも学習効果の高い国語科指導によって、児童生徒の国語力も確実に上がるといえる。これらのことをオフライン（研修講座）、オンライン（e ラーニングシステム）双方のよさを生かしながら研究できたことは大変効果的であった。児童生徒がより意欲的に活動でき、表現したくなるような手立てをこれからも研究実践していきたいと思う。

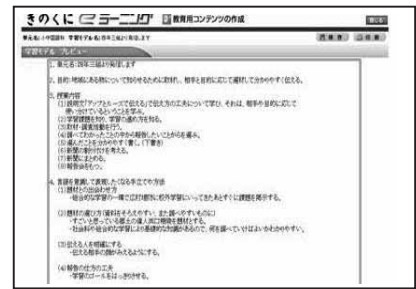


写真 3 学習計画



写真 4 コンテンツ化